

ふくしま水田農業改革実践プログラム 【概要】

1 趣 旨

平成 16 年度から水田農業改革アクションプログラムに基づき本県水田農業の抜本的な改革を推進してきた。その結果、環境にやさしい米づくりや、集落営農の進展など一定の成果が得られたものの、米に偏重した生産構造からの脱却や担い手の育成確保、米の計画的な生産等の課題が残された。

これらを踏まえ、新たに「ふくしま水田農業改革実践プログラム」を策定し、「ふくしま食・農再生戦略」の推進と一体となり、本県の水田農業が持続的に発展できるよう各種施策を展開し、地域水田農業ビジョンの実現を通じ本県水田農業の再構築を目指すこととする。

2 策定主体

24 の農業関係機関・団体で構成する福島県水田農業改革推進本部が策定

3 取組期間 平成 20 年度から平成 22 年度までの 3 年間

4 基本的な考え方

(1) 趣旨： 収益性の高い農業経営と活力ある生産構造の確立を目指す。

(2) 性格付け

「ふくしま食・農再生戦略」と一体となって水田農業改革を進める。
水田利用の将来方向等を定めた地域水田農業ビジョンの実現を支援する。
県、市町村、団体等一体で取り組む。

5 主な視点

(1) 水田農業経営の目指す姿

目指す姿

米の計画的生産を基本とし、米の需要動向を踏まえた生産
水稻に依存した経営から脱却
米価下落情勢においても十分な農業所得を確保
効率的・安定的な農業経営体

その方向

〔経営規模の拡大〕
認定農業者の育成、集落営農の確立
〔経営の複合化〕
大豆・園芸作物・飼料作物等の導入による水稻の計画的作付
〔低コスト・省力化〕
生産コストの削減と省力化の実現

(2) 取組みの重点化

下記の4項目を重点的に推進する。

また、水田農業改革の実現度を測るため目標値を設定する。

(1) 特色を生かした多様な米づくり

生産調整の強力な推進

需要動向に対応した多様な米づくりや低コストな米づくり

環境と共生する稲作と信頼される米づくり

目標設定：環境と共生する米づくりの取組面積

【現状（H18） 21,008ha 目標 32,000ha】

水稲直播栽培団地(6ha以上)の面積

【現状（H18） 654ha 目標 1,250ha】

加工用米の作付面積

【現状（H18） 852ha 目標 2,000ha】

(2) 大豆、そば、麦、飼料作物の生産振興

団地化や新技術等による生産拡大・本作化と品質向上

加工業者と連携した多様な販売チャネルによる流通拡大

県オリジナルそば品種を中心としたそばの生産拡大

耕畜連携を活用した飼料作物の生産拡大

目標設定：大豆の団地面積

【現状（H18） 945ha 目標 1,400ha】

そばの団地面積

【現状（H18） 1,230ha 目標 2,000ha】

飼料用イネの作付面積

【現状（H18） 97ha 目標 250ha】

(3) 水田を活用した園芸作物の生産拡大

地域水田農業ビジョンに位置づけられた園芸作物の導入・拡大

園芸産地育成プロジェクトによる園芸産地の育成強化

目標設定：転作田への園芸作物の作付面積

【現状（H18） 2,738ha 目標 3,600ha】

(4) 意欲ある水田農業担い手の確保

地域水田農業ビジョン担い手の認定農業者への誘導と規模拡大

担い手組織の育成と法人化の支援

目標設定：地域水田農業ビジョン担い手の認定農業者数

【現状（H18） 4,538人 目標 5,350人】